

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 各務原高等学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和4年6月23日(木) 13:30~15:35
- 3 開催場所 各務原高等学校 会議室
- 4 参加者 委員 長倉 守 岐阜大学大学院教育学研究科准教授
奥村 篤 各務原市立中央中学校長
小川 陽子 新生こどもえん園長
尾関 淳 各務原市 市長公室 町づくり推進課 課長(欠席)
堀 善子 各務原市教育委員会総務課ふるさと教育アドバイザー
檜田 邦繁 本校PTA会長

学校側 細井 恒樹 校長
溝下 肇 教頭
美濃輪 智彦 教務部長
松久 潤 生徒指導部長
原 裕子 進路指導部長

5 会議の概要(協議事項)

(1) 本校の授業について(授業参観を踏まえて)

意見1: 授業がさらによくなっている。(視覚的な支援がある。)

意見2: 対話的で深い学びへの工夫がみられる。

意見3: イラスト化、ツイートなどきっかけになるような生徒に身近な仕掛けがあり、「遠い世界の学び」を意味のある学び、多様な理解へとつなぐ授業の工夫がみられる。

意見4: 学校長の言葉にあるように、生徒は本校を「選んで」来ているはずだが(授業時の)生徒の様子を観ると学習に向かっている生徒とそうでない生徒がいる。その差の原因は何か。学力差か。学ぶことに対する目的意識をどのようにもたせたらよいのか。

意見5: 授業時に生徒がおおむね集中しているのは教員側の工夫と思われる。

意見6: 落ち着いた雰囲気で行われているが、生徒自らが動くのではなく、受け身がちな部分もある。生徒に任せる部分があってもよいのではないかと。

意見7: 「考え方を問う」から「書かせる」ことへとつなぐ活動を行っているのはよい。

(2) 令和4年度「スクール・ポリシー」及び「指導の重点及び学校経営計画」について

学校側の説明

- ・今年度は各学年6クラスの体制になり、教員数も減った。部活動(数)の見直しが必要。
- ・「普通科改革」の必要性について⇒ふるさと教育、国際交流、高大連携など
- ・高校卒業が目標ではなく通過点となるように学力を付ける必要がある。

意見 8

- ・スクール・ポリシーは教育活動に生かし、取組に反映させていかなければならない。今後の姿勢が問われる。

意見 9

- ・スクール・ポリシーを教育活動の中心に置き、その中の文言を各分掌の方針等に盛り込み、教育活動の軸とする。(生徒指導の「自己を律する」「自己有用感」はスクール・ポリシーの(1)②に、進路指導の「多様な進路」は(2)②と考えられ、特別活動等も文言が盛り込まれており、望ましい。)

意見 10

- ・スクール・ポリシーは生徒にも投げかけ、「創造」「挑戦」「協同」の力を付けて卒業してほしい。それが自信につながる。

意見 11

- ・スクール・ポリシーに「自己を律する」という文言があるが、目的意識につながる事が大切であり、自己決定を大切にしていく必要がある。

意見 12

- ・学校の魅力化、特色化、活性化について生徒側からも意見が寄せられるとよい。

意見 13 ~~14~~

- ・スクール・ポリシーを教員と生徒でしっかりと受け止め、その内容が学校としての魅力となるようにしていくべき。特に「地域」に対する意識が「人間性」「社会性」の向上につながり、学校の活性化になっていくとよい。

意見 14

- ・働き方改革について、限られた時間の中で、どのように教育活動に対処しているのか。部活動数減による選択肢の減少は学校の魅力の減少につながるのではないかと。
- ⇒削れる仕事は削り、外部に任せられることは任せていきたいが、人材と予算が足りないのが現実である。生徒のことを考えると部活動を減らしていくことは断腸の思いではあるが、顧問の数も不足、勤務時間を過ぎても帰れない教員も多くいることを考えるとやむを得ない選択肢である。個々の教員や学校内での努力では限界がある。

意見 15

- ・私立高校との差別化をどのようにしていくのか。どのように入学志願者を増やしていくか。

(3) 各分掌の「方針と重点、現状と課題」について

意見 16

- ・SNS上のトラブルは中学校にも多く、情報モラルの指導は毎朝行っている。

意見 17

- ・生徒は必要な理由がわかると取り組むので、「ダメなものはダメ」で終わらせず、「なぜ？」という取組の意義を考えさせ、生徒たちに自分たちで自分たちの生活を見直す機会を与えるのがよい。自分たちで考えさせ、ルールも作らせるとよい。

意見 18

- ・制服に関する規則が改定されたが、改定に際して生徒の意見は反映されたのか。
- ⇒コロナ禍での改定で、ゼロから生徒の意見を反映させることはできなかった。予め候補をいくつか絞ってから生徒に意見を求め、反映させた。

意見 19

- ・本校の卒業生は勤勉さと基本的な知性はあるが、柔軟性がない。つまり「創造」「挑戦」「協同」のうち「創造」性が足りない。創造性を育むため、特別活動を軸にした次のステップへの取組に期待する。

(4) 各務原高校のふるさと教育（地域課題探究学習）について

意見 20

- ・図書館が木質化され、すばらしい環境になっている。タブレット端末の使用が浸透しているが、ネット上の情報を追うだけの浅い調べ学習になっているのではないか。「真の意味」にたどり着けるように、図書館での調べ学習をもっと充実してほしい。

意見 21

- ・「創造性」を育てる鮮明な共通意識が必要である。

(5) その他

- ・学校評価アンケートの学校独自項目について
昨年度のは経年比較のためにも踏襲する。追加項目について意見を求めたい。

意見 22

- ・ふるさと教育の成果について、下記のような質問を加えてはどうか。
 - ・地域をどれくらい大事に思っているか。（大事に思うようになったか。）
 - ・地域の行事に参加しているか。
 - ・地域をよくするために何をしたらよいか、考えているか。

意見 23

- ・「学校は、コースや選択授業等、特色ある教育を行っている」という項目に対し、「具体的には学校が行う取組のうち、何をよいと思うか」を問いかけて回答させるとよい。

6 会議のまとめ

- ・全委員より今年度の本校の学校運営基本方針について承認が得られた。
- ・本校を魅力ある学校にしていくために、スクール・ポリシーを活用していく。
- ・学校評価アンケートについては、得られた意見をもとに項目を追加して実施する。